

第1回西日本医学生アジア交流会議

1979

西日本医学生アジア連絡協議会

V 反省と展望

藤会 答 奏 九 二

牛尾 光 宏

岡山大学医学部学生

岡山大学医学部アジア伝統医学研究会

1979年会長

私が岡大医学部のこの研究会に入ったのは1978年の5月だった。それ以来、研究会の活動及びアジア地域における出来事に となっている。いや、さらに正確に言うと、1979年の7月タイ農村に入ってからである。同時代の同アジア地区といいながら、経済的・社会的・文化的そして特に医療状況の相違の大きさに驚いたのを今でも鮮明に覚えている。いささか短絡的かもしれないが、その時から、国際医療協力、国際理解という大きな課題が私の頭から離れないのである。

学生である自分がこの種の問題に触れる事は是非も自問として同時に起った。というのは問題の大きさもさることながら、学生というまだ確固たる何もない事が指適されるからである。

しかし本日、多くの方々の理解と協力により西日本医学生アジア交流会議を行い、同じ医学生であり、そして同じくアジアに関心を持つ人々が多くいることも知り、大きく勇気づけられたのである。しかも代表者会議において「西日本医学生アジア連絡協議会」の発足が採択されたことは、今後の活動の飛躍の為に1つの礎となると期待している。

講演の中で全ての先生方が述べられていた様に、この種の活動は特に相互の理解と協力が不可欠である。我々の活動が独善的なものとならず、真の国際理解、国際医療協力の一助となるには、さらに深い相互の理解、対話が必要となろう。その為の最善の方法は人材の交流であると思っております。従って次世代を担う若者がしっかりとした視点を持ち、各大学の研究会又は連絡協議会を通じて、各国を見聞することに期待を寄せるのである。

国際勢は刻々と変化している。アジアも例外ではない。我々の活動、視点もそれに正確に対応しつつかつ流されることなく、継続的にやっていきたいものである。